

令和6年度  
学校評価報告書

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校

## 学校評価に関して

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
校長 中川 章治

学校評価の目的の第一は、学校が教育活動および学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることです。次に学校評価の実施・結果の公表によって、学校を地域に開かれたものとし、魅力ある学校づくりのために家庭や地域社会との連携を深めていくことです。そして設置者（私立学校においては理事会）が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善を講じ、教育水準の保証・向上を図ることとされています。

学校評価は、次の3段階からなります。

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 自己評価    | 教職員が行う評価  |
| (2) 学校関係者評価 | 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価 |
| (3) 第三者評価   | 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価                                   |

本校は平成20年4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」および「学校教育法施行細則」に基づき、同年度より学校評価の教員による「自己評価」を実施いたしております。また平成21年度より「生徒による学校評価」を行い、さらに平成22年度より「生徒による授業評価」を実施してまいりました。

本年度（令和6年度）も、10月から12月にかけて、教員による「自己評価」、生徒による学校評価、生徒による授業評価を行い、学校評価検討委員会による「自己評価」等の分析の結果について保護者の代表である後援会実行委員の皆様にご検討いただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」、そして「学校関係者評価」を真摯に受け止め、聖徳太子様の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

## 学校教育と学校評価

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
学校評価検討委員会  
委員長 北田 昇吾

学校評価は、文部科学省の主導の下、教育全体を見つめ直そうという意図で実施されてきました。その眼目は生徒・保護者・教員が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。この目的のために、学校設置者は教育活動の成果を検証して組織的・継続的に改善を図り、学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要となります。

上記方針の下、本校の「学校評価」の取り組みにつきましては、平成20年4月以来継続して実施しており、令和6年度で17回目を迎えました。

具体的に学校評価とは

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

というPDCAサイクルを指し、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくというものです。

学校評価は、評価自体に目的があるのではなく、将来にわたって学校が充実した教育活動を実施できるように、また学校が常にあらゆる場面で活動的であるために、その手段として評価を行うものであります。

本学園ではこの取り組みに際し、教育方針（目標）を基として、上記のサイクルを実施して「教員自己評価」などの学校評価を行って参りました。

今年度の「生徒学校評価」は、調査の対象学年を、昨年度と同様に高校は大学入試などを控えた3年生を除く1,2年生の2学年、中学は1年生から3年生の全学年の合計5学年として、11月に実施しました。

また、上記の「教員自己評価」、「生徒学校評価」に加えて、学校評価の開始年度より継続して実施の各教科の授業における「生徒による授業評価」の結果をあわせて報告いたします。

報告にあたり、大勢の方々のご協力のもと、令和6年度のご報告が出来ますことにお礼申し上げますとともに、この報告が本校における教育の改善・充実につながる資料となりますこと、また今後も関係の皆様のお力添えを頂けますことを、心からお願い申し上げます。

## 1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- (1) 円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- (2) 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- (3) 個性を充分伸長できる教育を行う。

## 2. 中期的目標に基づいた今年度の重点目標 ～Plan～

- (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
  - (ア) 学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
  - (イ) 毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
  - (ウ) 上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
- (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
  - (ア) 教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
  - (イ) 規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
  - (ウ) 課題の提出や、小テスト等を実施し学力の定着を図る。
- (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
  - (ア) 進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
  - (イ) 的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。

- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
- (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
  - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
  - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
  - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
- (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
  - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
- (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
  - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
  - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。
- (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する。
- (ア) 教科指導の向上をめざし、研修に参加する。
  - (イ) 生徒指導、進路指導における知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加する。

### 3. 「教員自己評価」、「生徒学校評価」の各項目における目標評価点（指数）

今年度、基本とする目標評価点（指数）は4.5以上

なお、4.5を必要としないと考えられる項目に関しては、その点を考慮しつつ分析を行うこととする。

※評価点（指数）の算出方法：

$$\begin{aligned} \text{評価点} &= 5 \times \text{A 当てはまる(\%)} + 4 \times \text{B やや当てはまる(\%)} \\ &+ 2 \times \text{C あまり当てはまらない(\%)} + 1 \times \text{D 当てはまらない(\%)} \end{aligned}$$

# 1 教員自己評価の集計結果と分析について ～Check～

今年度の重点目標(1)～(7)の項目【Plan】ごとに、その取組【Do】の結果について、評価点(指数)に基づいて分析をおこなった。回答の精度を上げるために、質問が「業務対象にあてはまらない」項目についてはA～Dでの回答を要しないようにしている。

## 令和6年度 今年度の取り組みに対する教員自己評価集計結果

回答教員人数：148名  
専任・常勤92名/全体：62%

A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

今年度の重点取組目標 ～Plan～	質問NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～Do～	令和6年度				(参考)前年度までの評価点		
			評価点	A	B	C	D	令和5年度	令和4年度
(1)学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.6	67.1%	28.0%	4.2%	0.7%	4.6	4.6
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.7	69.9%	28.8%	0.7%	0.7%	4.7	4.7
	3	塔影祭(体育祭・文化祭)や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	4.1	43.1%	43.1%	11.8%	2.0%	4.0	4.0
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。	4.3	53.8%	35.2%	9.9%	1.1%	4.4	4.4
	5	学級朝拝において、般若心経の読経、聖歌の斉唱など、生徒にしっかり指導が出来ている。(R6追加)	4.6	65.9%	31.8%	1.2%	1.2%		
	6	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	4.1	49.5%	32.0%	15.5%	3.1%	4.3	4.0
(2)学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する	7	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.7	75.3%	22.6%	1.4%	0.7%	4.7	4.6
	8	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	52.7%	43.8%	2.7%	0.7%	4.5	4.5
	9	課題の提出や、小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	4.3	54.5%	36.6%	6.2%	2.8%	3.7	3.8
	10	授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い。	3.9	21.2%	63.0%	13.7%	2.1%	4.1	4.0
	11	授業でICT機器を活用している。	4.1	44.1%	39.3%	11.7%	4.8%	3.9	3.6
	12	授業は規律正しくできている。	4.6	62.3%	36.3%	1.4%	0.0%	4.6	4.6
	13	授業の進度は適切である。	4.5	57.5%	37.7%	3.4%	1.4%	4.4	4.4
	14	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	3.8	20.5%	58.9%	20.5%	0.0%	3.8	3.8
	15	副教材など適切に活用できている。	4.4	53.8%	39.2%	6.3%	0.7%	4.3	4.2
	16	遅進者に適切なアドバイスや支援など、積極的に取り組んでいる。	3.8	31.0%	45.5%	20.7%	2.8%	3.8	3.8
	17	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができています。	4.2	42.1%	49.0%	7.6%	1.4%	4.2	4.2
(3)生徒個々人が個性を充分伸ばせる情報発信や教育を行う	18	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.4	54.2%	40.8%	3.5%	1.4%	4.5	4.5
	19	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.9	33.9%	46.4%	17.9%	1.8%	3.7	3.8
	20	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	4.1	45.2%	39.8%	11.8%	3.2%	4.2	3.9

## (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

質問 1, 2 は教員の心構えというべき項目で、昨年度に引き続き、評価点は 4.5 以上を維持できている。この状態が継続できるように努めたい。

質問 3, 4, 6 については、コロナ感染拡大前の形態とほぼ同じ形で実施することできたため、4.1～4.3 と比較的高い評価になっている。ただ、質問 3 は 0.1 ポイント増加しているが、質問 4 は 0.1 ポイント、質問 6 は 0.2 ポイント減少している。学校行事は教科指導と共に、学校における活動の根幹となる重要なものであるため、すべての教員が学校行事や課外活動を通して「生徒の人間形成に携わる」という気持ちをもって積極的に関わることを更に心がける必要がある。

質問 5 は今年度から追加した項目である。評価点が 4.5 以上と高評価になっており、学級朝拝の重要性を十分に理解し、きちんと指導している指教員が多いことがわかる。

## (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する

質問 7, 8 については、評価点が 4.5 以上と高評価になっており、授業にあたり十分に準備をし、工夫をしていると自覚している教員が多いということになる。質問 9 は今年度、小テストを必要としない科目もあることも考慮して、「適宜小テストなど使い」から「課題の提出や小テストなどを使い」という表現に変更した。そのため、昨年度より 0.6 ポイント大きく増加した。

質問 10 の「授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い」は 3.9 で、昨年度より 0.2 ポイント減少している。「満足度」は教員の主観に因るところもあり、客観的な判断との差異がないかを検証する必要がある。この質問 10 に対応する「生徒学校評価」の項目 6 「総合的に考えて授業に満足していますか」の評価点は、昨年度と比べて高校は 0.1 ポイント減少、中学は 0.1 増加して、高校は 3.9、中学は 4.3 となっており、高校と中学の平均値が 4.1 であることから、教員側と生徒側ではほぼ一致していることがわかる。ただし、高校は評価点 4.0 を下回っているため、教員側は生徒に達成感・満足感を与えることができるように意識して授業に取り組む必要がある。また、質問 10 は「生徒授業評価」の【質問 9】「授業に興味関心をもつことができたと感じている」、【質問 10】「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」に関連する。質問 10 は A, B 評価を合わせた割合が 84.2%、C, D 評価を合わせた割合が 15.8%である。この割合と「生徒授業評価」の【質問 9】、【質問 10】の評価は教員側と生徒側ではほぼ一致していることがわかる。

今後もすべての教員が教科・科目の目標に基づいた十分な準備と工夫を行い、絶えず振り返りと検証をし、研鑽に努めることが重要となる。また、教科などの研修については、種々の情報提供や参加のための支援、参加後の情報の共有などについても積極的に行うことが必要である。

質問 11 の評価点は昨年度よりも 0.2 ポイント増加して 4.1 になった。一昨年度から 0.5 ポイント大きく増加したことにより、授業で ICT 機器を利用する教員が大きく増加したことがわかる。引き続き、教員の研修や各教科の指導内容に応じた具体的な活用方法等について研究し、ICT 活用の推進と指導力の向上を図ることが求められる。

質問 12 については昨年度と同じく評価点が高い。質問 13 についても昨年度から 0.1 ポイント増加して評価点が 4.5 となった。この状態を維持できるように努めたい。

質問 14～17 については、質問 15 は昨年度より 0.1 ポイント増加したが、他は昨年度と同じである。特に質問 14 と 16 は昨年度と同じく評価点が 3.8 と低く、C, D 評価を合わせた割合が昨年同様に 20%を超えているため、生徒一人一人の学習状況をしっかり把握し、遅進者対策については、さらに積極的に取り組む必要がある。

### (3) 生徒個人が個性を充分伸ばせる情報発信や教育を行う

質問 18 は昨年度から 0.1 ポイント減少して評価点が 4.4 となったが、概ね目標値を維持している。

質問 19 の評価点は昨年度より 0.2 ポイント増加した。しかし、評価点は 3.9 で低いため、学年・コース等で成績資料を用いた面談の実施方法の改善が必要である。

質問 20 の進路指導に関連する相談や情報の提供に関しては、昨年度よりも 0.1 ポイント減少し、評価点が 4.1 となっている。対応する生徒学校評価の項目 8 「進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか」の評価が高校、中学ともに 4.0 でほぼ一致している。今後も、進路相談や情報発信を充実させるべく、進路指導部を中心としてすべての教員が取り組むべき課題である。

今年度の重点取組目標	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容	令和6年度				令和5年度	令和4年度	
			評価点	A	B	C	D	評価点	評価点
(4)規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	21	正しい制服・髪型などについてしっかり指導している。	4.1	42.1%	43.8%	11.6%	2.5%	4.1	4.0
	22	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.3	53.4%	36.4%	10.2%	0.0%	4.4	4.2
	23	登下校時の合掌・礼拝を機会がある毎に励行させる指導を行っている。	4.1	44.1%	36.6%	19.4%	0.0%	4.2	4.1
	24	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	4.0	38.0%	44.4%	14.8%	2.8%	4.0	3.9
	25	校内美化の徹底を図る指導をしている。	4.4	54.2%	39.3%	5.6%	0.9%	4.2	4.1
	26	常に時間を守る指導を行っている。	4.6	62.5%	33.8%	3.7%	0.0%	4.5	4.4
	27	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	4.1	45.3%	38.5%	12.0%	4.3%	4.0	4.0
	28	生徒個人々の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.1	38.2%	48.8%	10.6%	2.4%	4.2	4.2
	29	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	4.4	67.0%	23.1%	6.6%	3.3%	4.5	4.3
(5)様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う	30	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.4	57.5%	35.8%	5.8%	0.8%	4.4	4.4
	31	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.5	65.6%	29.0%	3.8%	1.5%	4.6	4.5
	32	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	4.4	58.0%	33.0%	5.4%	3.6%	4.5	4.4
(6)危機管理マニュアルに則り安全の意識を徹底させる	33	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.8	36.8%	36.0%	24.6%	2.6%	3.8	4.0
	34	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.3	49.1%	42.9%	6.3%	1.8%	4.3	4.2
(7)教科指導、生徒指導上の自己の知識やスキルを向上させる	35	教科指導の向上を目指し、校外研修や校内の研修、授業見学などに参加した。	3.9	51.1%	22.3%	17.3%	9.4%	4.0	3.7
	36	生徒指導や進路指導に関する知識やスキルを向上させるべく、校内研修や校外研修などに参加した。	3.7	45.3%	21.4%	22.2%	11.1%	3.5	3.4

### (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

質問 21～29 は評価点が 4.0～4.6 と例年通り比較的高い評価になっている。これらの項目はいずれも、生徒の毎日の学校生活に直結するものであり、教員が常に意識しておかねばならない内容である。目標とする評価点 4.5 以上となるよう更なる努力が望まれる。

#### (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

質問 30～32 の「人権教育・人権学習」に関しては、質問 31 と 32 が昨年度より 0.1 ポイント減少したが、4.4～4.5 の高い評価となっている。

生徒学校評価の項目 17「現在の学年になってから、クラスやクラブ活動で、いじめられていると感じたことがありますか」で「あてはまる、ややあてはまる」と回答し、かつ 18「それは解消されましたか」について「あてはまらない、あまりあてはまらない」と回答した生徒が中学で 4 名、高校で 3 名で昨年度より減少していることから、教員があらゆるいじめをゆるさないという強い意識をもって取り組んだ結果だと考えられる。引き続き、すべての教員が協力して、教科の指導も含めたすべての教育活動において、人権を尊重する意識をもって生徒に接し、いじめ等が起こらない環境づくりをさらに進める必要がある。

#### (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる

質問 33 と 34 は昨年度と変わらない評価点になっている。質問 33 の評価点は 4.0 を下回ったままのため、すべての教員がさらに意識して取り組む必要がある。特に AED の設置場所は生徒に対して周知徹底が必要である。なお、すべての教員が、実際の災害発生時には指示待ちになることなく、生徒に対して適切な指示をして安全に行動できるよう、平時から防災意識をもっておく必要がある。

#### (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する

質問 35 は昨年度より 0.1 ポイント減少して評価点が 3.9 となっている。質問 36 は昨年度より 0.2 ポイント増加したものの、まだ 3.7 ポイントに止まっている。質問 35 と 36 とも評価点が 4.0 を下回っているため、十分に研修に参加できているとはいえない状況である。生徒の充実した学校生活と進路実現のためには、教科指導だけでなく、生徒指導および進路指導についても見識を高めることが不可欠であり、積極的に研修に参加するなどの意識改革が求められる。

## 2-(1) 生徒学校評価の集計結果と分析について

生徒による学校評価は、一部表現を変更した質問があるが昨年度までの質問内容を継続している。

令和6年度 回答人数

高校808名（高二[410名] 高一[398名]）

中学891名（中三[255名] 中二[307名] 中一[329名]）

### 令和6年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

評価点（指標）の計算式：Aの人数割合×5+Bの人数割合×4+Cの人数割合×2+Dの人数割合×1

A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

※評価点の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（17,21）については数値が低いほど望ましい評価、またどちらとも言えない項目（27～29など）があるにご留意ください。

No	質問		評価点	令和6年度				(参考)評価点		
			令和6年度	A	B	C	D	令和5年度	令和4年度	
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.1	36.0%	52.7%	10.0%	1.4%	4.2	4.2	
		中学	4.2	37.6%	52.8%	8.1%	1.5%	4.2	4.1	
2	学級活動や学校行事、部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.4	54.5%	36.8%	7.2%	1.6%	4.4	4.3	
		中学	4.3	51.1%	40.2%	7.2%	1.5%	4.4	4.3	
3	予習あるいは復習などを十分に授業に臨んでいますか。	高校	3.6	19.3%	52.5%	23.9%	4.3%	3.6	3.7	
		中学	3.5	18.0%	51.3%	26.9%	3.7%	3.8	3.8	
4	課題や宿題は期限を守って提出できていますか。	高校	4.1	49.8%	33.6%	13.0%	3.6%	4.1	4.2	
		中学	3.9	39.8%	39.8%	15.2%	5.2%	4.1	4.0	
5	授業で、ICT機器の利用を含めて、教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか。	高校	3.9	35.2%	46.1%	15.5%	3.2%	3.9	3.9	
		中学	4.3	50.2%	38.6%	8.8%	2.4%	4.2	4.2	
6	総合的に考えて授業に満足していますか。	高校	3.9	31.4%	50.9%	14.9%	2.8%	4.0	4.0	
		中学	4.3	46.6%	46.6%	5.1%	1.7%	4.2	4.2	
7	和光館における講話などは自分の成長につながると感じますか。（R6表現変更）	高校	3.4	19.6%	45.2%	24.3%	11.0%	3.7	3.6	
		中学	3.7	29.1%	44.8%	18.8%	7.3%	3.9	3.9	
8	進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか。	高校	4.0	37.1%	45.5%	14.8%	2.6%	4.0	4.0	
		中学	4.0	38.0%	44.0%	13.8%	4.2%	4.0	3.9	
9	(高校) 進路について先生と相談をしますか。（R6表現変更） (中学) 先生と学習相談をしますか。	高校	3.1	19.4%	33.9%	31.6%	15.1%	2.8	2.8	
		中学	2.8	19.0%	24.8%	30.0%	26.2%	2.4	2.6	
10	進路について保護者とよく相談をしますか。	高校	4.0	42.8%	38.5%	15.1%	3.6%	4.0	4.0	
		中学	3.3	23.2%	34.8%	28.9%	13.0%	3.3	3.4	
11	先生や保護者以外では誰と進路について相談をしますか。（いない場合は未記入）	高校	兄弟姉妹100, 親戚10, 友達274, 先輩14, 塾や家庭教師253						(記述)	
		中学	兄弟姉妹72, 親戚31, 友達211, 先輩8, 塾や家庭教師104						(記述)	
12	服装や髪型など、校則を守るよう心がけていますか。	高校	4.6	73.0%	22.5%	3.0%	1.5%	4.6	4.7	
		中学	4.7	80.3%	16.3%	2.4%	1.0%	4.7	4.7	
13	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.7	80.5%	13.7%	4.9%	0.9%	4.8	4.8	
		中学	4.7	81.8%	12.8%	3.5%	1.9%	4.7	4.7	
14	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.7	81.9%	13.4%	2.7%	2.0%	4.8	4.8	
		中学	4.8	87.7%	9.9%	1.0%	1.5%	4.8	4.8	
15	登下校時のマナーに気をつけていますか。	高校	4.8	79.0%	19.4%	1.1%	0.5%	4.8	4.7	
		中学	4.6	70.9%	25.9%	2.5%	0.7%	4.7	4.7	
16	校則に改善すべき点があると感じますか。	高校	4.2	59.8%	21.4%	12.4%	6.5%	4.2	4.1	
		中学	3.6	43.5%	24.1%	17.6%	14.8%	3.9	3.7	
17	現在の学年になってから、クラスやクラブ活動で、いじめられていると感じたことがありますか。	高校	1.1	0.5%	0.7%	6.3%	92.4%	1.1	1.1	
		中学	1.2	0.8%	1.7%	10.5%	87.1%	1.2	1.2	
18	* (17)でA「あてはまる」、B「ややあてはまる」と答えた人だけ教えてください。それは解消されましたか。	高校	3.6	40.0%	30.0%	10.0%	20.0%	3.1	3.6	
		中学	3.2	33.3%	33.3%	4.2%	12.5%	3.1	2.9	

項目1～8は、重点目標の(1)、(2)に関連した学校教育の根幹となるところに関わる内容である。項目1, 2は、項目1で高校が0.1ポイント減少、項目2で中学が0.1ポイント減少しているが、他は昨年度と同じである。アンケート対象のほぼすべての生徒が、学校生活に前向きに取り組んでいることがうかがえる結果である。

項目3, 4は、日々の学習状況についての内容である。項目3は、今年度から予習と復習のどちらを重視するかは教科によって異なるため「授業の準備（予習・復習など）を十分に授業に臨

んでいますか」から「予習あるいは復習などを十分にしておいて授業に臨んでいますか」に表現を変更した。高校は評価点が 3.6 と昨年度と変わっていないが、中学で 0.3 ポイント減少して評価点が 3.5 になり、例年低い評価点が続いている。項目 4 の課題、宿題の提出の状況については、高校は評価点が 4.1 で昨年度と変わっていないが、中学で 0.2 ポイント減少して評価点が 3.9 になっている。学年ごとの評価点は高校 1 年が 4.3、高校 2 年が 3.9、中学 1 年が 4.1、中学 2 年が 3.8、中学 3 年が 3.9 となっており、高校、中学ともに学年が上がるほど低くなる傾向にある。「教員自己評価」の項目 14「生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている」の評価点が 3.8 で例年低い評価点が続いていることも原因になっていると考えられる。教科担当は生徒一人一人の学習状況をしっかり把握し、またその状況をクラス担任と共有し、教科担当・クラス担任で生徒に適切な指導をすることが必要であると考えられる。

項目 5 は中学で 0.1 ポイント増加し評価点が 4.3 になった。高校は評価点が 3.9 で昨年度と変わらず、C、D 評価を合わせた割合が約 20% と高い割合になっている。教員自己評価の質問 11「授業で ICT 機器を活用している」は昨年度より 0.2 ポイント増加して評価点が 4.1 になっているが、項目 5 で高校は C、D 評価を合わせた割合が約 20% であることを踏まえ、生徒が持つ Surface の活用も含めて、教員が授業において、ICT 機器も活用して生徒の授業理解度を高めることができるように意識して取り組む必要があると考えられる。

項目 6 は教員自己評価の質問 10「授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い」で取り上げた項目で『評価点は、昨年度と比べて高校は 0.1 ポイント減少、中学は 0.1 増加して、高校は 3.9、中学は 4.3 となっており、高校と中学の平均値が 4.1 であることから、教員側と生徒側ではほぼ一致していることがわかる。ただし、高校は評価点 4.0 を下回っているため、教員側は生徒に達成感・満足感を与えることができるように意識して授業に取り組む必要がある。』と分析した。学年ごとの評価点は、高校 1 年が 4.1、高校 2 年が 3.8、中学 1 年が 4.5、中学 2 年が 4.3、中学 3 年が 4.2 となっている。学年が上がるほど評価点が下がる傾向となっていることを踏まえ、生徒の満足度を高めることができるように授業のさらなる工夫が求められる。

項目 7 は和光館などにおける講話に関する質問である。今年度より「和光館における講話などは多様な知識や人格の形成に役立つものが多いと感じますか。」から「和光館における講話などは自分の成長につながると感じますか。」と生徒に質問内容が伝わりやすいように変更したが、評価点は高校で昨年度より 0.3 ポイント減少、中学は 0.2 ポイント減少して、高校で 3.4、中学で 3.7 となった。「自分の成長につながる」という表現が生徒に実感しづらかったかもしれない。来年度は質問をより伝わりやすい内容に変更して、その結果を分析したい。

項目 8～11 は重点目標の(3)に関連するキャリア形成に関する項目である。項目 8 は、一昨年度から「進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか。」とし、学校として生徒が進路に関して考えることができる体制を整備できているかを測り、今後の本校のキャリア教育の改善の参考となるように設問を変更した。評価点は高校と中学とも 4.0 で、昨年度と変わっていないことから、今後も生徒が進路について考える体制を継続して取り組む必要がある。項目 9 は今年度から「(高校)進路について先生とよく相談をしますか。(中学)先生とよく学習相談をしますか。」から「(高校)進路について先生と相談をしますか。(中学)先生と学習相談をしますか。」に表現を変更した。評価点は高校が 0.3 ポイント増加して 3.1、中学は 0.4 ポイント増加して 2.8 となっている。昨年度までと同様、教員に進路相談や学習相談をする生徒が少ないという現状が見える。新学習指導要領では、段階を踏まえたキャリア教育の推進が重要とされており、本校においても、生徒一人一人のキャリア形成と自己実現にむけたサポート体制を一層充実し、生徒が気軽に自己の進路相談や学習相談ができる体制をつくることが求められる。項目 10 および 11

からは、進路についての相談相手としては、身近な保護者や家族以外にも友達や塾や家庭教師にアドバイスを求めている生徒が多いという様子がうかがえる。中学と高校での評価点の差は、自己の将来に対する見方、考え方の発達段階における違いによるものと考えられる。

項目 12～15 は「規律正しい生活習慣」や「マナー」に関する項目である。昨年度と同様、本校の生徒がいかに真面目であるかがよくわかる結果となっている。

項目 16 の評価点は高校は昨年度と変わらず 4.2、中学は 0.3 ポイント減少して 3.6 となったが、まだまだ「校則に改善すべき点がある」と感じている生徒の割合が高い。校則については、学校において学習社会環境や生徒の状況の変化に応じて、適宜見直して改定を行っているが、教員は校則を守るように指導するだけでなく、生徒が校則を自分のものとしてとらえて自主的に校則を守れるようにすることを意識した指導を行うことが求められる。

項目 17～21 は、人権に関する項目である。まず、項目 17, 18 は、いじめに関する質問である。項目 17 の評価点は、昨年度と同じ小さい値であった。(値の小さい方が好ましい項目)

教員自己評価の質問 31「あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。」でも取り上げた内容である。「現在の学年になってから、クラスやクラブ活動で、いじめられていると感じたことがありますか」で「あてはまる、ややあてはまる」と回答し、かつ 18「それは解消されましたか」について「あてはまらない、あまりあてはまらない」と回答した生徒が中学が 4 名、高校が 3 名で昨年度より減少していることから、教員が強い意識をもって取り組んだ結果だと考えられる。ただし、いじめられていると感じた回答が一人でもあることに対しては、人権教育部の実施している「いじめに関するアンケート」の結果とあわせて、人権教育部や生徒指導部を中心として学校全体で連携して対応することが求められる。今年度は「生徒学校評価アンケート」を人権教育部の実施している「いじめに関するアンケート」より早く実施することができたため、学年ごとのデータを人権教育部と共有することができた。いじめが疑わしい事象の早期発見、早期対応のためには、生徒の日々の様子に注意を払い、気になる事例については、情報の共有と可視化を図り、保護者、家庭と連携した対応ができる組織作りが不可欠である。

No	質 問		評価点	令和 6 年度				(参考)評価点	
			令和 6 年度	A	B	C	D	令和 5 年度	令和 4 年度
19	悩み事があった場合、相談できる先生や大人（保護者など）がいますか。	高校	4.1	49.1%	33.3%	10.3%	7.3%	4.1	4.0
		中学	4.2	58.5%	24.7%	10.5%	6.3%	4.1	4.0
20	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.5	63.4%	31.9%	3.5%	1.2%	4.5	4.5
		中学	4.4	55.1%	39.4%	4.9%	0.7%	4.4	4.4
21	先生からハラスメントと感ずることを受けたことがありますか。	高校	1.6	2.8%	7.4%	25.7%	64.1%	1.5	1.5
		中学	1.4	1.9%	6.2%	16.9%	75.0%	1.5	1.5
22	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に気をつけていますか。	高校	3.9	34.9%	45.7%	15.7%	3.7%	3.8	3.8
		中学	3.7	32.1%	41.3%	20.5%	6.1%	3.7	3.7
23	保健室を利用する人に質問します。学校で保健室を利用したときに、けがや病気（体調不良）について適切に対応できていると感じますか。保健室を利用したことのない人は空白にしてください。	高校	3.3	30.7%	29.4%	21.6%	18.2%	3.3	3.6
		中学	3.5	35.8%	29.0%	19.6%	15.7%	3.7	3.8
24	防災訓練などで災害が起こった場合の行動について理解できていますか。	高校	4.4	53.5%	41.3%	4.7%	0.5%	4.4	4.4
		中学	4.5	57.6%	37.2%	4.0%	1.1%	4.6	4.5
25	校内にある防災器具（消火器等）や救命器具（AED等）の場所はわかりやすく整備されていると思いますか。	高校	3.8	33.2%	40.3%	21.7%	4.7%	3.8	3.8
		中学	3.7	32.7%	37.3%	24.4%	5.6%	3.7	3.8
26	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	4.2	46.1%	42.2%	10.1%	1.6%	4.1	4.1
		中学	4.0	39.0%	44.9%	12.4%	3.7%	4.0	4.0
27	図書室をよく利用しますか。	高校	1.9	7.5%	10.6%	27.1%	54.9%	1.9	2.0
		中学	1.9	7.8%	11.0%	26.7%	54.5%	1.9	2.0
28	学習（自習）スペースに満足していますか。	高校	3.8	33.2%	41.5%	19.2%	6.1%	2.7	2.6
		中学	4.0	45.3%	37.9%	9.7%	7.1%	2.8	2.7
29	校内の食堂のメニューや購買部の品物は充実していると思いますか。（R6 表現変更）	高校	4.2	50.3%	36.6%	9.1%	4.0%	3.4	3.3
		中学	4.5	67.4%	25.5%	4.8%	2.4%	3.5	3.6
30	校内の施設は充実していると思いますか。	高校	3.4	22.8%	40.0%	24.5%	12.7%	3.4	3.4
		中学	3.8	38.0%	36.8%	17.3%	7.9%	3.7	3.7
31	学校生活に必要な情報が、プリントやすぐーる、Teams、ロイロノート、ホームページなどで伝えられていると思いますか。	高校	4.2	45.4%	41.6%	10.6%	2.4%	4.0	4.1
		中学	4.4	57.2%	33.8%	6.9%	2.1%	4.3	4.3

項目 19 の評価点は、高校は昨年度と変わらず 4.1、中学は 0.1 ポイント増加して 4.2 となっている。まだ 20%弱の生徒が C、D を選んでいることを踏まえ、学校（教員、スクールカウンセラーなど）と家庭（保護者）がより密接に連携して、様々な悩みをもつ生徒に対してサポートをする体制が必要である。

項目 20 の人権尊重の意識に関する質問については、評価点は昨年度と変わらず高い評価になっている。引き続き、学校や家庭をはじめ、あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動できるように指導を行う必要がある。

スクールハラスメントに関する項目 21（値の小さい方が好ましい項目）は、昨年度と同じ小さい値であった。しかし、教員の側が意図していない場面でも、言葉遣いや態度によっては厳しい指導とを感じる生徒がいることを意識しなければならない。

項目 22～25 は、健康および危機管理に関連した項目である。22 の健康管理に関する質問については、高校、中学ともに評価点が 4.0 未満で、気になるところである。保健室からも毎月保健便りを配信してもらっているが、特に中学で 26.6%の生徒が C、D を選んでいることを踏まえ、健康管理の大切さを生徒に再認識させていく必要があると考える。

項目 23 は一昨年度に新たに追加した項目で、保健室の対応について生徒がどのように感じているのかを把握することを目的として設けた。今年度は回答の精度をあげるために「保健室を利用する人に質問します」、「保健室を利用したくない人は空白にしてください」という表現を追加した。評価点は高校は昨年度と変わらず 3.3、中学は 0.2 ポイント減少して 3.5 となっている。高校と中学とも昨年度同様に低い評価であることを真摯に受け止め、生徒への対応の改善が急務である。

項目 24、25 は防災に関する内容である。項目 24 の評価点は、高校 4.4、中学 4.5 と高い結果となっている。項目 25 の評価点は昨年度と変わらず高校 3.8、中学 3.7 となっているが、C、D を選んでいる生徒が高校で 26.4%、中学で 30.0%と昨年度の 25%より増加していることを踏まえ、防災設備の設置場所の確認を周知徹底する必要がある。

項目 26 の教室の美化に関しては、評価点は高校で 0.1 ポイント増加して 4.2、中学は昨年度と変わらず 4.0 となっている。教室の清掃や整理整頓は、快適な学校生活を過ごすためには欠かせないため、毎日の終礼などで指導を徹底することが必要である。

項目 27～30 は学校施設に関する設問である。項目 28 は「学習（自習）スペースをよく利用しますか。」から「学習（自習）スペースに満足していますか。」に表現を変更した。評価点は高校と中学とも大きく増加して高校は 3.8、中学は 4.0 となった。A、B を選んでいる生徒が高校で 74.7%、中学で 83.2%と高く、多くの生徒が学習スペースに満足し活用していることがわかる。項目 27 の図書館の利用の評価点は 1.9 と例年通り低い結果となっている。しかし、放課後に図書館を自習スペースとして利用している生徒が多いことは、項目 28 の結果から考えられる。項目 29 は「校内の食堂や購買をよく利用しますか。」から「校内の食堂のメニューや購買部の品物は充実していると思いますか。」と表現を具体的な内容に変更した。その結果、評価点が高校 4.2、中学 4.5 と高い結果となった。項目 30 の「施設の充実」については、評価点は高校は昨年度と変わらず 3.4、中学は 0.1 ポイント増加して 3.8 で評価点は 4.0 未満である。生徒がどのような施設を求めているかなどの調査を行い、実現に向けて中長期計画に基づいた施策が求められるところである。

項目 31 の評価点は 4.0 以上で昨年度より高校と中学ともに増加している。学校からの情報などについては、満足できる状態で生徒、保護者に提供できてきていると考えられる。

## 2-(2) 生徒授業評価の集計結果と分析について

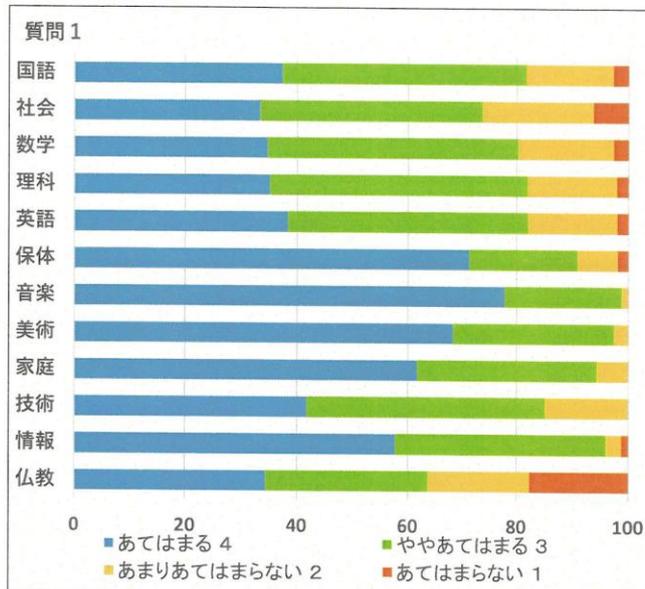
生徒による授業評価は、指導力の向上や授業の改善を図り、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するとともに、生徒自らが学習への取組を自己評価することで見つめ直すことを目的として、学校評価を開始して以来、継続して調査を実施している。従来から、集計結果は授業を担当する教員および各教科内での授業改善に役立ててきたが、一昨年度から、学校全体として「授業改善」に役立てることを目的として、教科毎の集計結果をまとめて可視化を行った。

集計にあたっては、各教科とも高校、中学の両方の授業を担当している教員も多いことから、高校、中学の調査結果をあわせて集計した。また、授業時間数、担当教員が多い教科と少ない教科がある（教科によって1～27人）が、集計結果は、各質問について、教科ごとに「4～1」の回答の割合(%)で表している。また、実習・実技を中心とする科目では、質問の内容が異なる項目もあることにもご留意いただきたい。

《生徒による授業評価(2024年度)》教科別集計 (%) ※中高全体

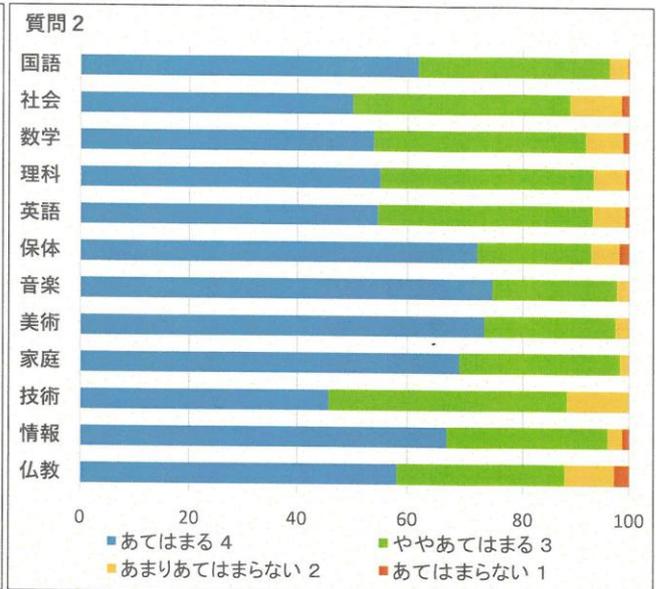
### 【質問1】

授業内容について、必要な予習や復習ができています。  
(実習・実技科目) 授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。



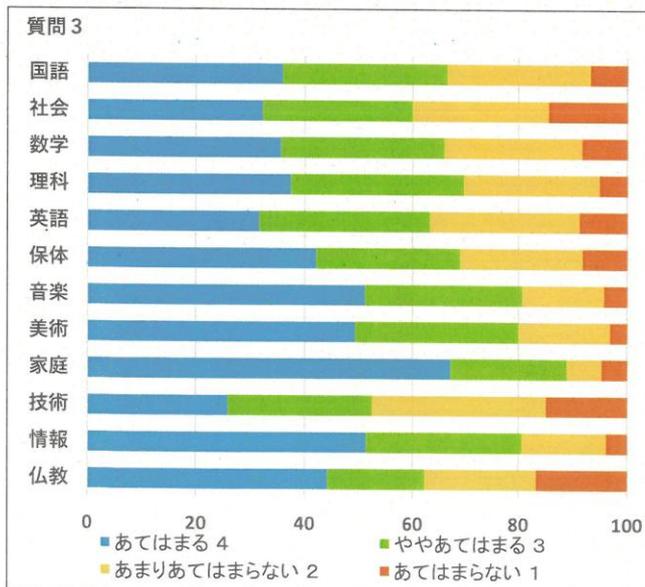
### 【質問2】

授業中は、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる。  
(実習・実技科目) 進んで実習に取り組むなど、主体的に授業に参加している。



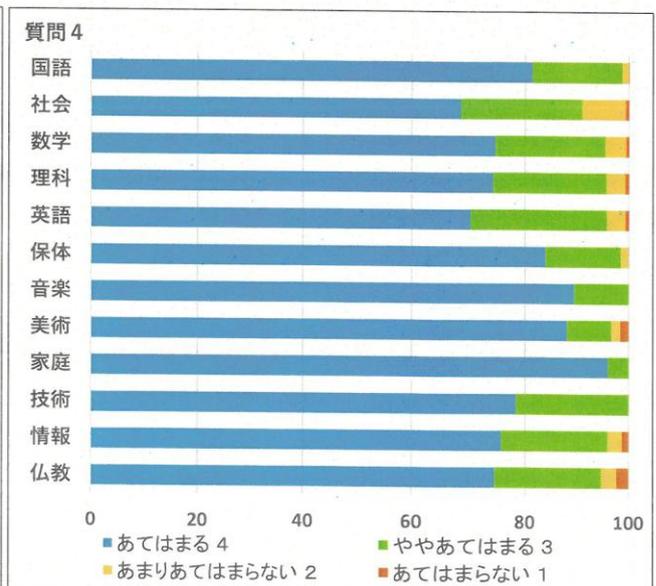
### 【質問3】

授業でわからないときは、質問している。  
(実習・実技科目) 授業で、うまくいかなかった点やわからない点は質問している。

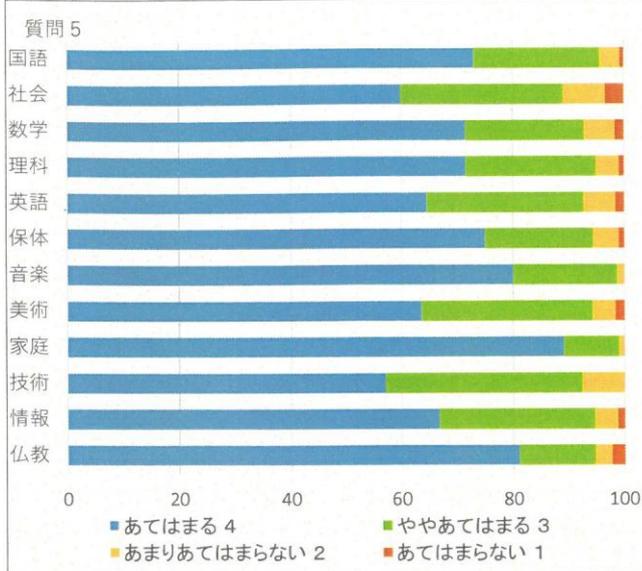


### 【質問4】

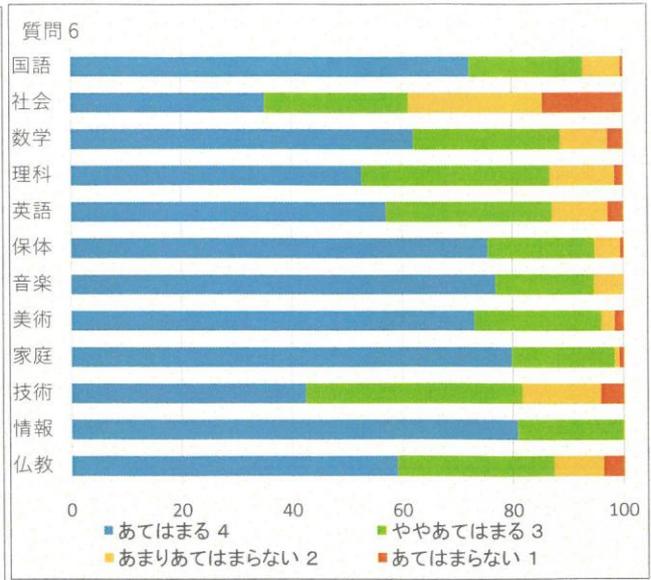
先生は、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる。  
(実習・実技科目) 先生は、授業の目標や実習・実技の方法を説明してくれる。



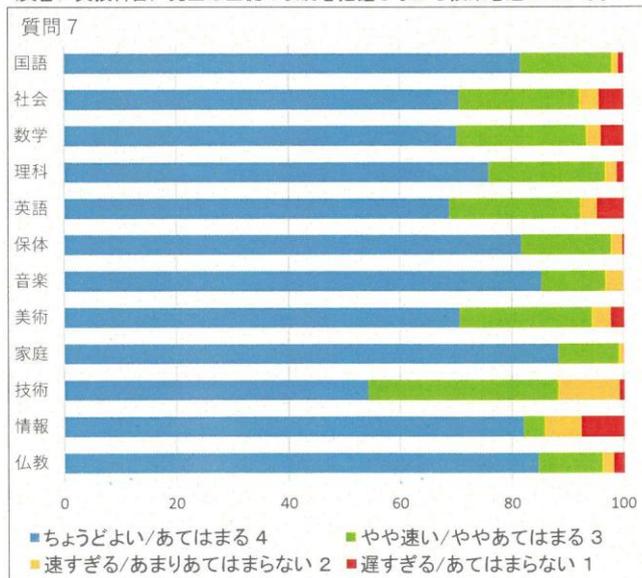
【質問5】  
授業では、黒板やプリント・電子黒板やPC(surface)が、理解・整理に役立つように活用されている。  
(実習・実技科目) 授業で与えられる教材や課題の量は自分にとって適切である。



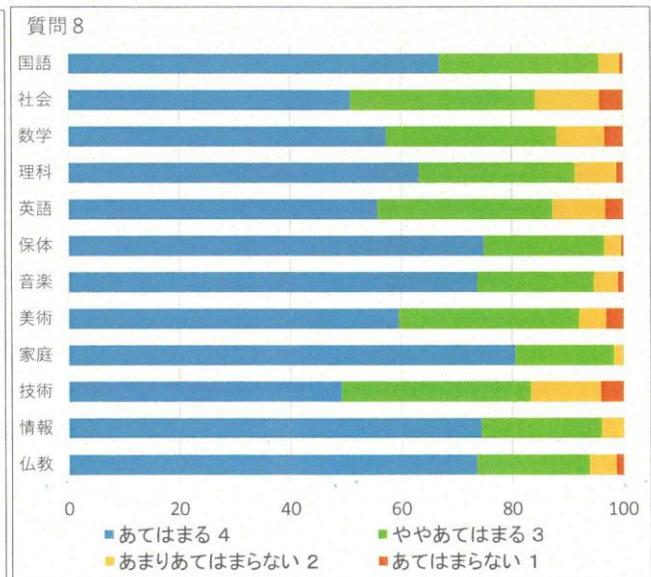
【質問6】  
授業では、自分で考える時間や、発言する機会が多い。  
(実習・実技科目) 自分で考える時間や、主体的に活動する時間を多く取り入れている。



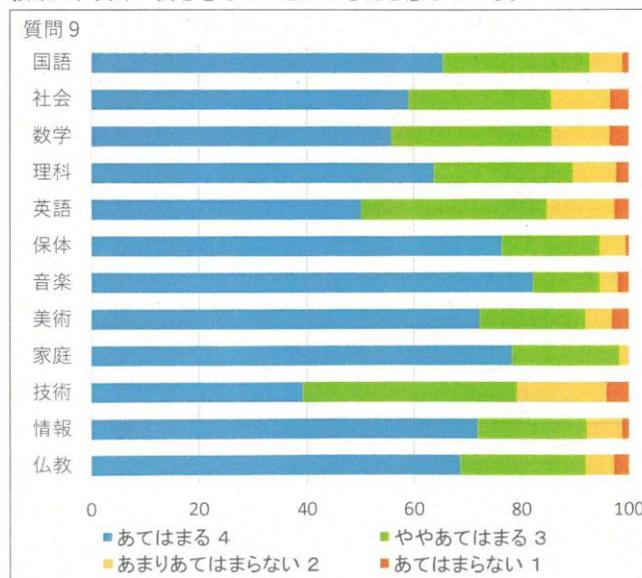
【質問7】  
授業の進む速さは、ちょうど良い速さである。  
【4:ちょうどよい 3:やや速い 2:速すぎる 1:遅すぎる】  
(実習・実技科目) 先生は生徒の状況を把握しながら授業を進めている。



【質問8】  
先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。



【質問9】  
授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。



【質問10】  
授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。



質問1～3は、生徒自身に係わる質問である。質問1は、生徒学校評価の項目3、4と関連しており、ほぼ相関の見られる結果である。また、質問3では「授業でわからないときは質問している」に「あてはまる」と「ややあてはまる」と回答している生徒が60%台の教科が多い。これは教員自己評価で分析した質問14の評価点が3.8と低く、C、D評価を合わせた割合が昨年同様に20%を超えていることと相関があると考えられる。教員が授業中の生徒の反応を的確に捉えて質問しやすい環境をつくっていく必要があると考えられる。

質問4～10は、授業内容や教員の指導方法に関する質問である。多くの質問項目において「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて80%以上の教科が多く、日頃の教育活動に一定の評価が得られているものと思われる。教員は、これらの結果を真摯に受け止め、教科、科目による授業の特性を活かしながら、各教科、科目における授業の理解度が向上し、生徒の授業に対する満足度がより高くなるように努める必要がある。

### 3. 本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目～Action～

- (1) 教員は、真摯に教育活動に取り組む姿勢を堅持し、独善的な判断や押しつけに陥ることの無いよう、社会、環境の変化を的確に把握し、その状況に応じた適切な学びを提供できるように常に自己を省み、常に探究心や学び続ける意識を持つことが必要である。
- (2) 教員は、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、生徒の知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる「思考力、判断力、表現力」「主体的に学びに向かう力」などの資質・能力を育むことのできる「魅力的な授業」「わかる授業」を実現できるようにする必要がある。さらに、教員は生徒一人一人の学習状況をしっかり把握し、成績資料を効果的に活用して遅進者対策も含め、生徒一人一人の学力を伸ばしていくことが必要である。
- (3) 教員は、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現し、生徒が能動的に学習できるように生徒のタブレット PC の活用、デジタル教科書の導入など教育の ICT 化を積極的に行うことが求められる。ICT 機器の活用などにおいては、使うことが目的ではなく、活用によって従来よりも効果的に学習内容が定着できることが重要である。また、学校はそのために必要な研修などの拡充を図らねばならない。
- (4) 生徒一人一人のキャリア形成と自己実現にむけたサポート体制を一層充実し、生徒が気軽に自己の進路相談や学習相談ができる体制をつくる必要がある。
- (5) 学校活動のあらゆる機会において、人権を尊重する心を育み、生徒・教員・保護者が連携して、いじめや人権の侵害を許さず、すべての生徒が安心できる学校づくりを推進する。
- (6) 生徒の学校生活における学習指導や生徒指導、健康・安全指導などに関連する事象については、家庭・保護者と積極的な連携を図る必要がある。生徒や保護者との面談、懇談などにおいては Teams などのコミュニケーションツールも適切に活用することが望ましい。また、学校は、すぐーるやホームページなどによる情報発信を積極的に行い、開けた学校づくりを推進する。
- (7) 教員は、教科指導、進路指導、生徒指導、学校安全等の研修会へ積極的に参加する必要がある。また、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫・改善し、新しい授業形態にも対応できるよう、教員の相互授業参観などもより積極的に行う。

## 学校関係者（保護者役員）への学校評価分析結果報告会

1) 実施日 : 令和7年(2025年)3月15日(土) 13時30分～

2) 会場 : 四天王寺高等学校・中学校 A棟会議室

3) 出席者 : 14名

敬称略

(学校関係) 保護者役員 8名				学校評価検討委員会役員 6名			
後援会会長	森岡利浩			常務理事	森田惇朗		
同 副会長	新川雅也			校長	中川章治		
同 //	山根愛			高校教頭	綱瑞恵		
同 //	庄康恵			中学教頭	大杉剛司		
同 会計	岡本寿美子			評価委員長	北田昇吾		
同 //	神尾紀子			※記録			
同 会計監査	植田達哉			同副委員長	栗岡司郎		
同 //	田淵慎哉						

# 令和6年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校後援会  
会長 森岡利浩

本年度の学校関係者評価は以下の通りです。

- 1 学校評価委員会が、PDCAサイクルを通じて、教育活動の成果を検証して、組織的・継続的に改善を図ろうとし、そのために、「学校関係者評価」「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」の調査を実施されていることは高く評価できることである。

このような評価は、PDCAの内のC（Check、評価）の部分に関することであり、このような評価を踏まえて、A（Action、改善）、P（Plan、目標設定）、D（Do、取り組み）を策定することが重要であるところ、評価委員会では、ある程度具体的な目標設定をされているので、その点も評価できるが、より具体的な目標設定をおこなうことも重要であると考えられる。

以下、具体的な評価を記載するが、問題として考えている点のみを記載しているので、その点は、御容赦願いたい。

- 2 教員の自己評価の集計結果について

- ・質問3、質問6について

塔影祭への自己評価や生徒会活動・部活動への自己評価が低いところが気になった。これらの活動は、生徒の主体的意思の発露であるところ、この点に対する積極的な働きかけをお願いしたい。

- ・質問10について

生徒の達成感・満足感については、生徒授業評価ともおおむね一致しており、評価の低さが気になることである。この点について、検討委員会では、教科などの研修について、種々の情報提供や参加のための支援、参加後の情報の共有などを積極的におこなうことが必要であると記載されているが、どのような研修や情報共有をして、それが個々の教員の授業として、どのような改善がなされているのか、具体的な内容が判然としていないところが気になることである。

- ・質問11について

ICT機器については、より積極的な活用が望まれるところである。

- ・質問14、質問16、質問17について

生徒一人一人の学習状況の把握については自己評価が低く、この点についても、たとえば、定期的な個別面談の必須化を含めて、より具体的な対策を提示すべきと考える。

- ・質問33、質問34について

南海トラフ地震が迫っている中で、より主体的な意思を持った防災対策を行うべきと考える。

- ・質問35、質問36について

校外研修、校内研修と、より実践的な研修を実施していただきたい。

### 3 生徒の学校評価の集計結果について

- ・質問7について

和光館での講和について、生徒を引き付ける内容にすべきと考える

- ・質問8、質問9について

進路について、教員間のコミュニケーションについて低評価であることは問題であると考え  
る。この点については、定期的な個別面談の必須化が必要と思われる。

- ・質問16について

校則について、特に中学生は不満を持っているようである。この点について、生徒の主体的  
な意思を尊重すべきであるという判断の下、生徒会に校則に対する改善点を提示させ、学校側  
と議論する場を持つなど、単に、学校側のみで判断するのではなく、改定について、生徒も関  
与できるような仕組み作りが必要である。

- ・質問23について

いわゆる保健室問題については、かねてより問題となっているところ、前年度と評価の改善  
が認められない。何が問題で、どのような改善するか具体的に提示して、実践することが急務  
であると考えられる。

学校側のご努力のより、多くの項目において好評が得られていることは、大変素晴らしいことで  
あり、各教員には敬意を表します。ただ、ICT機器の進歩が著しいものがあり、一層の研鑽を深  
めて、より理解しやすい授業の実践を実施していただき、一方で、個別の生徒に対しては、進路に  
対する相談を含めて、より細かなコミュニケーションを図っていただきたいというのが、学校関係  
者の意見です。

以 上

令和6年度 学校評価  
令和7年3月31日 発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園  
四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
校長 中川 章治

監 修 四天王寺高等学校  
教 頭 綱 瑞恵  
四天王寺中学校  
教 頭 大杉 剛司

編 集 学校評価検討委員会  
委員長 北田 昇吾  
副委員長 栗岡 司郎